

第2回
朝霞市都市計画マスタープラン庁内検討委員会
議事録

令和6年6月11日

都市建設部 まちづくり推進課

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	朝霞市都市計画マスタープラン庁内検討委員会	
開催日時	令和6年6月11日（木） 午後3時00分から 午後4時50分まで	
開催場所	朝霞市役所 別館5階 大会議室（手前）	
出席者及び欠席者の職・氏名	別紙のとおり	
議題	別紙のとおり	
会議資料	別紙のとおり	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
傍聴者の数	なし	
その他の必要事項	なし	

第2回朝霞市都市計画マスタープラン庁内検討委員会

令和6年6月11日（火）

午後3時00分から

午後4時50分まで

朝霞市役所 別館5階

大会議室（手前）

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

①現況整理について

②次期都市マスの構成とテーマについて

③合意形成のプロセスについて

4 閉 会

出席委員（10人）（代理出席1人）

委 員 長	都市建設部長	松 岡 里 奈
副 委 員 長	都市建設部審議監兼都市建設部次長兼まちづくり推進課長	村 沢 敏 美
委 員	市長公室市長公室次長兼政策企画課長	櫻 井 正 樹
	（代理 市長公室政策企画課政策企画係長	石 崎 博 貴）
委 員	危機管理室副審議監兼危機管理室長	小野澤 誠
委 員	総務部総務部次長兼財政課長	金 子 智 之
委 員	市民環境部市民環境部次長兼地域づくり支援課長	又 賀 俊 一
委 員	福祉部福祉部次長兼長寿はつらつ課長	濱 浩 一
委 員	こども・健康部こども・健康部次長兼保育課長	玄 順 正 明
委 員	都市建設部都市建設部次長兼開発建築課長	塩 味 基
委 員	上下水道部上下水道部次長兼下水道施設課長	久保田 哲 人
委 員	学校教育部学校教育部次長兼教育総務課長	関 口 豊 樹
委 員	生涯学習部生涯学習部次長兼生涯学習・スポーツ課長	小笠原 ミツエ

学識経験者（1人）

学 識 経 験 者 麗澤大学准教授 須 永 大 介

事務局（6人）

事 務 局 都市建設部まちづくり推進課主幹兼課長補佐 持 田 宏 行

事 務 局 都市建設部まちづくり推進課都市計画係長 濱 野 孝 雄

事 務 局 都市建設部まちづくり推進課都市計画係主査 村 岡 拓

事 務 局 都市建設部まちづくり推進課都市計画係主事 米 満 智 志

事 務 局 (株)国際開発コンサルタンツ東京支店 計画・交通課 プロジェクトマネージャー 松 下 佳 広

事 務 局 (株)国際開発コンサルタンツ東京支店 計画・交通課 プロジェクトマネージャー代理 矢 嶋 聡

事 務 局 (株)国際開発コンサルタンツ東京支店 計画・交通課 万 毅

事 務 局 (株)国際開発コンサルタンツ東京支店 計画・交通課 伊 藤 彩 夏

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

■議題①「現況整理について」

○村沢副委員長

P8の計画の事業進捗評価については、総計の事業評価を基に、都市マスの事業進捗を整理した上で、各担当課に対して進捗を確認している。各課長に課内で情報共有をしていただき、ご協力いただきたい。また、ヒアリングについてはどう考えているのか。

○事務局

ヒアリングは細かいことの確認程度を想定しており、個別に実施する。

○村沢副委員長

ヒアリングの結果をもとに、参考資料3「都市マスタープラン事業評価（土地利用分野）」の空欄を埋めることになるが、その成果は工程表の（7）（8）の根拠となるのか。

○事務局

その通りである。現段階における実施状況の確認と今後の課題を精査したい。

○村沢副委員

その結果は次回検討委員会で示す予定なのか。

○事務局

示す予定である。なお、整理途中でも適宜各課に確認・調整を図りたい。

○塩味委員

アンケート結果から、住宅地として魅力的であることは分かった。しかし、企業を立地する場所として、企業立地の観点で評判が良いことが読み取れない。

○事務局

都市マスのアンケートは、「暮らし方（活動）」と「住まい方」についての現在の状況や将来のニーズを調査したため、産業については今後事業評価をする中で調整したい。

○須永委員

事務局には暮らす人だけでなく、遊びに来る人・働く人等を含めた計画の作成を進めていただいている。

○小野澤委員

スケジュールの第3回議題案及び策定時からの変化は都計審の議題になっているが、その変化の評価は何をどう評価するのか。また、その結果はどう活かすのか。

○事務局

基本的に現行計画策定から20年間の事業の進捗状況や指標の動向を基に評価を行っており、評価の結果が今後の課題整理につながる。今の「評価」という表現は分かりにくいので改めたい。

○村沢副委員

PDC Aのチェックでは、最終的に都計審での報告を行うことが現行の都市マスに位置付けられており、現段階の進捗状況を整理し、課題の整理につながっていくイメージである。「評価」という表現では誤解を招くことがあるため、改めて検討していただきたい。

○須永委員

本来であれば目標に対する評価を行うことが施策の評価である。施策進捗の評価は別のものであるので、ご注意いただきたい。

■議題②「次期都市マスの構成とテーマについて」

○村沢副委員

都市マスは今後市民参加を通して、市民とともに20年後を見据えたまちの将来の方向性を検討する予定である。その結果により、テーマ設定が変わることがありうる。そのため、都市マスの構成とそのテーマ設定の事務局案を都計審にどこまで出すのか、出し方については検討したほうが良いかもしれない。

○久保田委員

ある程度示したうえで議論する方が、意見は出やすいかもしれない。

○事務局

基本的は従来型が当たり障りないと考えていたが、市民にとって分かりやすい計画にしたいという想いでテーマ型を示しており、事務局としては選択肢を多く示すより事務局としての方針を示す方が審議会の委員に伝わるのではないかと考えている。

○事務局

テーマ型の構成で進めることに異論はないか。

○関口委員

ほかの選択肢を見ていないので、テーマのみの議論になったが、テーマ型でよいかを判断するのは難しい。

○村沢副委員

従来型は現都市マスの構成であり、職員にとって見やすいが、市民にとっては分かりづらい。市民にまちづくりに参加していただきたい思いから、市民にとって分かりやすいテーマ型で進めたいと

考えている。

○金子委員

お金の問題はあるが、具体的に取り組みたいことが市民に伝わりやすいということを第1に考えると、テーマ型も1つの手法ではないか。

○村沢副委員

都市マスは実施計画ではなく、まちづくりの方針である。

○小野澤委員

テーマ型だと総計との違いがどうなのかという話になり、実施計画の中に都市マスのチェックボックスを設けることにもなりかねない。

○関口委員

テーマ型にするのであれば、選んだ根拠を示さないと、納得しにくい部分はある。

○須永委員

都市マスは総計を前提に考える必要がある。従来型・テーマ型の両者を提示し、議論していただいてはどうか。テーマ設定は現況の整理や将来の見通しを踏まえて再検討した方が良い。

○濱委員

テーマ別にすることで、総計に寄ってしまい、都市マスと総計の差異が分かりづらくなるのではないか。

○事務局

総計と調整をしながら、何を強調するのかというところなどで差別化をしていきたい。ご指摘していただいた視点を大事に検討していきたい。

○関口委員

都市マスは総計に寄せながら独自性を出していかなければならない。

○須永委員

都市マスと総計の違いについては「具体的な取組」に「総計の取組」と「都市計画の取組」の両者を示すと、わかりやすくなるかもしれない。

○関口委員

テーマ設定について、アンケートから引っ張ってくることは多いが、ほかの根拠も見てはどうか。ターゲットとして、子どもから高齢者とあるが、子どもはどこまでなのか。朝霞市では0～9歳人口転入は増えていないことから、人口動態を参考にしつつ、子どもの見方についてももう少し検討していただきたい。

○事務局

0～9歳人口の転出にあたって、背景としてはその親世代である30～40代人口の所得が増え、住宅取得に伴う転出が挙げられる。ターゲットについてはご指摘を踏まえ、今後検討していきたい。

○須永委員

P26のターゲットについて、「テーマ」から考えられるターゲットと「具体的な取り組み」から考えられるターゲットをそれぞれ出してみたらから整合するのはどうか。

○久保田委員

今回の都市マスでは、重点地区を定める予定はあるのか。

○事務局

駅周辺等の拠点の考えはあるが、具体的に全体構想で示すか、地域別構想で示すかはこれからの検討になる。

○久保田委員

現段階は、重点地区の設定有無はまだ不明なのか。

○事務局

重点地区の設定の有無は未決定であり、アンケート等を踏まえ、全体的に見て地域拠点を設けるのか検討し、今後、庁内検討委員会で示したい。

○久保田委員

産業の誘致を考えた際に、254バイパスの開通の影響で周辺地区が重点地区になることがあるのかと思う。

○事務局

254バイパスについては、立地適正化計画を策定した際に、都市機能補完ゾーンという市独自の区域を設定している。災害が発生する地域であることから、住宅でなく、産業の立地場所として利用してもらうような位置づけを行う可能性はある。

○塩味委員

上下水道が入っておらず浄化槽になるので、実際に立地できるのは物流施設しかないが、立地適正化計画の中では整合性は取れているのか。

○事務局

立地適正化計画の中では、「国道254号バイパスの整備に合わせた沿道土地利用の促進を図る」と書かれており、具体的な商業等については述べていない。

○松岡委員長

テーマは事務局と詳細を検討していきたいと思う。今後も気になる点があればご意見をいただきたい。

■議題③「合意形成のプロセス」について

○事務局

6/22に開催するまちづくりサロンについて、事前申し込みを行っているので、周りにご興味のある人に声を变えていただきたい。高校生向けのまちづくりサロンについては、朝霞高校と朝霞西高校にご協力をいただいている。ほかの所管課で聞いておきたいことがあれば情報共有をいただきたい。

○村沢副委員

大学生に声をかける予定なのか。

○事務局

来週月曜に市長公室より大学生にインタビューを行う予定があり、まちづくり推進課も同席の予定である。

○村沢副委員

武蔵大学は行かないのか。考えていただければと思う。

■その他

○事務局

須永委員と委員の方々のご意見を踏まえ都計審に示す資料を検討するが、昨日に照会をかけた資料のご確認・ご協力は引き続きご協力をいただきたい。

以上